Y-SXIP プログラムに参加して

ベロール工科大学(VIT)派遣生　鈴木悠生

今回の派遣プログラムで、僕は初めてインドに行きました。渡航前は、日本とは異なる生活スタイルや食文化に順応できるか非常に心配でした。活動初日のチェンナイ空港から VIT へのタクシー移動の際に、初めてインドの街並みを見て、自分が予想していたよりも街に野良犬や牛が至る所にいたり、日本とは異なる交通事情に大きなカルチャーショックを受け、さらにインドでの生活に対して不安を覚えました。しかし、結果的には VIT の学生や先生方が非常に親切にサポートしてくださったおかげで、楽しく、充実した毎日を過ごすことができました。

活動内容の中での僕が一番思い出に残っているのは、CHEM-A-THON というイベントです。これは、IT 分野でよく開催されているハッカソンの化学工学版のイベントで、36 時間以内に与えられたお題に対して、チーム（1 チーム 5 人）で解決案を考え、どのチームが優れた解決案を提案できるかを競うイベントでした。僕は「熱交換」のカテゴリーに参加し、VIT の学部 3 年生の 4 人とチームを組みました。今まで、海外の方と日常的な会話をする場面は多く経験してきましたが、今回のような化学工学に関する会話をする経験はあまりなかったため、とても貴重な経験になりました。チームのメンバーと協力し、2 位になれたことは非常に嬉しかったです。一方で、本プログラムを通して、化学工学に関する基礎知識の不足、化学工学に関わる英単語力の不足を痛感し、今後勉強していく必要があるなと思いました。

僕は、今回のプログラムに参加するにあたり、積極的にコミュニケーションを取ることを心がけ、たくさんの学生・先生方と会話をすることができました。VIT のほとんどの生徒は、初めて日本人に会ったと言っており、彼らに日本の文化について多くの質問を受けました。日本の文化に対して関心を持っていてくれることに、非常に嬉しく思いました。短い活動期間ではありましたが、たくさんの友達を作ることができ、活動後半には別れが惜しくなり、「とても別れが惜しいよ。また必ず VIT に戻って来るからね。」と彼らに伝えると、「いつでも歓迎するから必ず戻ってきてね。」と言ってもらえました。本プログラムでの出会いを今回限りで終わらせるのではなく、今後とも彼らと連絡を取り続け、また VIT に行けるように研究を頑張っていこうと思いました。